

競技上の注意

第45回全国レディース卓球大会北海道予選会
第30回北海道レディース卓球大会
審判長 森 美香子

現行の日本卓球ルールを適用して実施する。

1. ルールの概要

- ・ 11本5ゲームマッチで行う。
- ・ ゲーム間の休憩時間は1分以内。
- ・ タオルの使用は6ポイント毎と最終ゲームどちらかの5点になった時に出来る。
- ・ タオルは各自袋等に入れて使用する。
- ・ チェンジエンドを実施する。
- ・ サービスは、開始から打球までボールをレシーバーから隠してはならない。また、審判員が正規のサービスであることを確信できるよう行うことは、競技者の責任である。
- ・ ゲーム開始後10分経過した場合は促進ルールを適用する。但し、双方のポイント合計が18ポイント以上(9-9、10-8)に達した場合は適用されない。

2. ボール、ラバー、ラケットについて

- ・ ラバーはラケット本体よりも大きかったり小さかったりしないこと。公認マーク・メーカー商標・ロゴなどはグリップに最も近い場所にはっきり見えるように貼らなければならない。
- ・ ゲーム中にラケットを破損した場合は、スペアラケットか競技領域内で手渡されたもので直ちにプレーを再開すること。
- ・ ラケットはJTTA、ラバーはJTTA、ITTFから公認されていること。公認マークのないものを使用する場合は、予め審判長の許可を受けること。
- ・ 試合中のインターバルでは、ラケットはテーブルの上に置くこと。
- ・ 公認の接着剤とシート以外の使用は認められない。

3. 競技服装

- ・ ゼッケンは2022年度(公財)日本卓球協会指定のものを着用すること。
- ・ 競技服装はJTTAが公認したものを着用すること。
- ・ 団体戦では、靴及び靴下を除き同じ服装で競技することを原則とする。
- ・ ヘアバンド・リストバンド・スパッツは着用できるが、日本卓球協会公認用具指定業者以外のマークが見えることは認めない。
- ・ 25年度よりレディース大会に限り肘・膝より長いアンダーウェアの着用が認められた。但し、その他でルールに合致しないものについては、予め審判長の許可を受けること。

4. その他

- ・ 団体戦は監督、個人戦は競技者本人のみが抗議権を持つ。
- ・ (それによって競技が遅れさえしなければ)ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる=29.1改定。
- ・ ポイントが決定した後は速やかに次のサービスあるいはレシーブの体勢をとり、競技時間の遅延を避けること。
- ・ 原則、試合の無いチームが審判を担当する。(チーム数によって相互審判も有り得る。)
- ・ タイムアウト制は適用しない。